

改訂版

日本留学試験対策 記述問題 テーマ100

〔基礎編〕
論理的な文章に慣れよう

初級後半
から
中級前半

〔著者〕
松岡龍美
目黒真実
青山豊



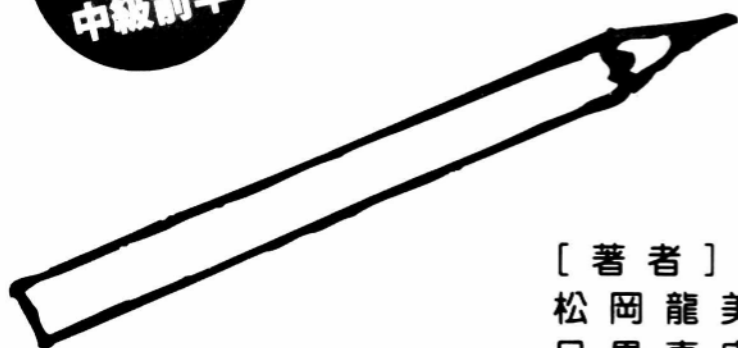
にほんごの
凡人社

改訂版

日本留学試験対策 記述問題 テーマ100

〔基礎編〕
論理的な文章に慣れよう

初級後半
から
中級前半



〔著者〕
松岡龍美
目黒真実
青山豊



にほんごの
凡人社

まえがき

2002年6月16日、第1回「日本留学試験」が実施されました。

今では、日本の大学に進学を希望する学生のほとんどが、「日本留学試験」を受けるようになっていました。

この「日本留学試験」の日本語科目が2010年6月より、改定されました。

大きな特徴を簡潔に述べると、「読解」の比重が大きくなったことと、「記述問題」の採点基準が変わったことです。大学進学を視野に入れたこの改定を私たち日本語教師は素直に歓迎したいと思います。

「記述問題」についてですが、新しい採点基準では、出題内容が「より論理性を問う」ものとなっていて、大学入試の小論文に近い内容となっています。

この改定に対応するため、新たな対策が必要となります。そこで、私たちは、2段階の対策を立てることにしました。

まず、初級後半・中級前半の学生を対象に、この『記述問題テーマ 100 [改訂版][基礎編]～論理的な文章に慣れよう～』を使って、[30分]で[400～500字]を[4～5段落構成]で書けるようになることを目指します。

次に、中級後半以上の学生を対象に、『記述問題テーマ 100 [完成編]～記述問題から志望理由・小論文まで～』（2010年秋発行予定）を使って[30分]で[500字]を[5段落構成以上]で書けるようになり、さらに、800字の小論文が書けるようになることを目指します。

以上、2段階の目標を設定することで、大学進学という最終目標に向けての作文学習ができると考えました。

学習者の皆さんが、自分の意見を書けるようになることで、目標を達成できますよう、心から願っております。

2010年6月 著者

本書をお使いになる方へ

がくしゅうしゃ

【学習者のみなさんへ】

*まず「Step 2 書き方を身につける！」で、

- ① 自分の意見を決めること
- ② その理由を挙げること（できれば二つ）
- ③ その具体例を挙げること

という練習をしてください。最初は頭の中で考える練習です。①から③まで5分でできるようにしましょう。できるまで「Step 4 記述問題『テーマ 100』」の問題を使ってもかまいません。

*それから、「Step 4 記述問題『テーマ 100』」の問題で、実際に原稿用紙に書く練習をしましょう。初めは時間を気にしないで書いてみてください。

（※56 ページに解答用紙がありますのでコピーして使ってください。）

*そして、400 字で書くことに慣れてきたら、今度は時間との戦いです。

30 分で 400 字以上、書けるように、何度でも書く練習をしましょう。

【教師の方へ】

*週に2時間の作文授業があるとしたら、「1 時間を一つのテーマについて学生同士で議論する時間に充て、次の時間で実際に書かせる」というのが基本だと思います。解答例の使い方は、いろいろ工夫していただきたいと思います。

*文体ですが、確かに、小論文対策としては、「である体」が基本だと思いますが、記述問題の設問自体が「です・ます体」であるため、解答例は、両方示すことにしました。

これも、実際に書いてみると分かるのですが、30 分で 400 字以上を書くためには、「です・ます体」の方が速く書けるし、具体例も書きやすく有利なのです。これは学習者にとっても同じことです。

時間に余裕があれば「である体」を、なければ学習者の書きやすい方を指導すればいいと思います。文体で評価が変わることはありません。

*旧日本語能力試験 2 級以上の漢字語彙にはルビがふってあります。

*「記述問題」の課題は、次の三つのタイプがあります。

- ① <A>との、どちらの意見に賛成か
- ② 未来を予測する問題（例えば 50 年後）
- ③ 一つの意見に対して、その理由を考え、さらに自分の意見を述べる問題

この『記述問題テーマ 100 改訂版』は、①の書き方を習得するためのものです。

[自分の意見] ⇒ [理由] ⇒ [具体例] ⇒ [反対意見の否定] ⇒ [結論]

この 5 段落構成で、30 分以内に 400～500 字書けるように、ご指導ください。

目 次

まえがき

本書をお使いになる方へ

Step 1：日本留学試験「記述問題」を知る！…… 4

Step 2：「書き方」を身につける！ …………… 8

Step 3：こう書けば 50 点！ 学生作文例&添削 ……28

Step 4：記述問題「テーマ 100」 ……………35

I：学校・教育 ……………36

II：家族・結婚 ……………38

III：暮らし・生き方 ……………40

IV：仕事・職業 ……………42

V：文化・異文化・国際化 ……………44

VI：メディア・コミュニケーション ……………46

VII：自然・環境 ……………48

VIII：医療・健康 ……………50

IX：現代社会・日本事情 ……………52

X：その他 ……………54

日本語「記述」解答用紙 ……………56

Step 5：記述問題「テーマ 100」解答例 ……………57



Step 1 日本留学試験「記述問題」を知る！

記述問題 採点基準

2010年6月より、「記述問題」の採点基準が新しくなりました。

新しい採点基準をもとに、必要とされる要素に分解して整理したのが下の表です。

レベル	課題	主張	根拠(論理性)	構成(論理性)	表現(文法)
S 50点	課題に沿って	明確に述べられている	説得力がある	効果的な構成	洗練された表現
A 40/45点	課題に沿って	明確に述べられている	妥当な根拠	効果的な構成	適切な表現
B 30/35点	課題にほぼ沿って	述べられている	おおむね妥当	妥当な構成	伝達上の支障がない
C 20/25点	課題を無視せず	述べられている	不適切な点が認められる	不適切な点が認められる	不適切な点が認められる
D 10点	課題との関連性が薄い	認められない or 関連性が薄い	(記述なし)	認められない or 関連性が薄い	不適切
NA 0点	課題との関連性がない	認められない	(記述なし)	認められない	不適切

* 日本学生支援機構 (<http://www.jasso.go.jp/eju/saitenki jun.html>) の『記述』採点基準の文言をもとに、筆者が分析・図表化したものである。

* 下記の解説は、筆者の分析に基づくものである。日本学生支援機構のウェブサイトも参照のこと。

- ① 全部で六つのレベル、9段階の採点基準です。
- ② この本では、「課題、主張、根拠、構成、表現」の五つのポイントに分けてモデル評価します。
※中心になるのは、根拠、構成、表現、の三つの評価です。

- ③ この本では、五つのポイントについて、各10点満点で便宜上計算します。

レベルS : 46～50点

レベルA⁻ : 36～40点

A⁺ : 41～45点

レベルB⁻ : 26～30点

B⁺ : 31～35点

レベルC⁻ : 11～20点

C⁺ : 21～25点

レベルD : 10点(「課題との関連性+主張+構成」が少しでも認められる場合10点)

- ④ 五つのポイントのうち、「根拠」と「構成」は以前の基準の「論理性」にあたり、「表現」は「文法」にあたると考えられます。

- ⑤ 50点と45点の差は、「説得力がある根拠」と「洗練された表現」です。

- ⑥ 45点と40点の差は、「語彙の豊富さ・専門性・抽象度=内容の高度さ」と考えられます。

レベルBとCの「上位/下位」の差は、ミスの多さと考えられます。

以前の採点基準の7段階（論理性3点+文法3点=6点満点）は、新基準の0～45点の8段階に相当します。

新基準では相当の学習歴（400～600時間以上）がないと、50点満点は取れなくなりました。

【換算表】「記述」領域

旧採点	新採点	レベル
	50点	S
6点	45点	A ⁺
5点	40点	A ⁻
4点	33点	B ⁻ /B ⁺
3点	25点	C ⁺
2点	20点	C ⁻
1点	10点	D
0点	0点	NA

*日本学生支援機構ウェブサイト「『日本語』改定に伴う得点範囲の換算について」より
*「レベル」の列は筆者が加えた

※この換算表から分かること。[35点 = レベルB⁺ 以上を目標にしよう!!]

🎯 課題について

課題のタイプは、三つのパターンがあります。

- 1. 「<A>との、どちらの意見に賛成か」という問題
- 2. 現代社会のトピックについて原因を述べ、未来を予測する問題
- 3. 一つの意見について理由を考え、自分の意見・解決策を述べる問題

※「1」と比べて、明らかに「2」または「3」の問題の方が難しい。

「1」は、最初から「二つの意見」が書いてありますが、「2」の場合、まず、示された社会問題の原因を考え、それから、それについて、未来の予測または自分の意見を書かなければなりません。「3」の場合も、「一つの意見」は示されていますが、その理由を考えて、その上で、それに対する自分の意見を書かなければなりません。

ですから、この本では、まず、「<A>との、どちらの意見に賛成か」という問題の書き方を練習しましょう。

「2」または「3」の問題については『記述問題テーマ 100 [完成編] ～記述問題から志望理由・小論文まで～』を使って練習してください。

② 二つの意見

「＜A＞と＜B＞の、どちらの意見に賛成か」という問題です。

【問題】日本では夏から秋にかけて、上高地など貴重な自然が残されている地域に多くの観光客が訪れています。

あなたは、そのような地域を訪れる観光客の数を

＜A＞制限すべきだ

＜B＞制限すべきではない

のどちらに賛成しますか。どちらかの立場に立ち、理由を挙げて、考えを書いてください。

賛成する方だけではなく、もう一方の内容についても触れながら書いてください。

[段落構成の例]

- ①自分の意見を書く（40字程度）
- ②その理由を書く（60～100字程度）
- ③その説明・例を書く（200～260字程度）
- ④もう一つの意見について書く ⇒ 否定する（80字程度）
- ⑤結論を書く（60字程度）

この本の採点方法で考えた場合、以上の五つの段落構成で書けば、「課題」は満点です。

しかし、例えば、④「もう一つの意見について」の段落を書かなかった場合は、「課題」も、そしてもちろん「構成」も減点になります。2×2＝マイナス4点と考えていいでしょう。

※ポイント：「課題」と関係ないことを書かないことが大事です。

そして、④「もう一つの意見について」書くことです。

🎯 記述問題のテーマについて

まず、出題の形式から見てみましょう。

そのほとんどが「どちらの意見に賛成ですか。反対ですか」という質問、あるいは「どちらを選びますか（どれを選びますか）」という二つ（三つ）のうちから一つ選ぶ問題になっています。

これは、人間の世界を大きく分けると、例えば男性と女性、親と子ども、古い考えと新しい考え、賛成と反対、肯定と否定などのように、ほとんどが二つに分けられるからです。昔から人間は、二つに分かれて議論を戦わせてきたのです。明るさと暗さ、やさしさと厳しさ、自由と規則、都会と田舎、中央と地方、人工と自然、科学と文学、脳と心、仕事と家族、共同体と個人などなど、数えたらきりがありません。

もちろん、すべて二つに分けられるほど人間は単純ではありませんが、自分がどちらを選ぶか、自分としては、どちらの側に立つか、一度は自分自身に聞いてみることも大事です。特に、日本留学を希望する人は、これから日本人やいろいろな国の人と交流するわけですから、自分の意見をはっきりさせて、その理由を言えるようにならなければなりません。この問題は、そのための問題だということができます。

ここで、わたしたちは、10のテーマに分け、それぞれ10の問題、つまり合計100の問題を考えました。100と聞くと多そうですが、そうでもありません。似ている問題が多いからです。

ここに挙げた100のテーマについて、一つ一つ準備するのは、確かに大変でしょう。けれども、まず問題だけ読んでみてください。そして、答えを書く前に、自分の意見が賛成か反対か、はっきり確かめてみてください。そうして10問、20問と答えていけば、自分の考え方が、ある程度決まっていることが分かるはずです。自分の思考パターンがつかめれば、400字程度の作文は、そんなに難しくありません。

後は、よく使う日本語の定型表現を覚えるだけで、ずいぶん書きやすくなるでしょう。

ところで、実際に「日本留学試験」の「記述問題」で出題されるテーマですが、一番出る可能性が高いのは、やはり何と言っても、学校・学問・教育に関連するテーマです。

二番目に可能性が高いのは、コンピュータやインターネット、電子メールや携帯電話など現代社会の最先端の科学技術製品についてです。

それから、国際交流や異文化コミュニケーションについて、環境問題について、情報産業社会、消費社会、少子高齢社会などの社会問題についてです。

その他には、家族や仕事や生活について個人の意見が問題にされるでしょう。